

平成 24 年 5 月 1 日発行
第 168 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「身近な“モンスター性を持つ人” 実例その

- 勇気・自信・信念を持ち医療人として“ 癒やか ”に処すか < その 3 > - 」

“人間”そして“人”更に 野郎“男”であればなおさら、誰も 心の中 頭の中に“モンスター性”は実在し 捨て去れないものである。昨年未から常に胸に秘め行動している“師”からいただいた“癒やかに”。この言葉は 最近思うに 誰もが持っている 自分のモンスター性を 戒め・コントロールするのに、己の魂の中に秘めておくべきであると悟った。最近の己自身の事であれば 下記 の事を 何度となく唱えながら 処してきた。

受け留めて 処すか・処さぬか これが出来るか・出来ぬか、これは組織の問題。

「組織とは トップの“器”の問題から 簡単に“根本が腐り 柱は折れたままの 想像以上のあばら家」と 低落します。

私 加藤寿夫自身 今後 数十年に及び、榛原医師会 そしてこの町 吉田町でお世話になり、開業医として診療を続ける覚悟を持つ人間“人”そして“医師”である事、また親子でお世話になってきた過去は無論、今後 未来の若い世代に受け継いでいく過程の中で、今訂正が必要な“事”。これは 一目瞭然です。

榛原医師会 高木平会長宛て書面[NO.53-4](平成24年3月2日)・吉田町 田村典彦町長宛て書面[NO.2012-4](平成24年3月7日)より抜粋

無言・隠蔽の上 己の都合 地位・名誉からのプライドが邪魔をするのか、上から目線で、己の原点を見失い、“最初のボタンの掛け間違い”から 突っ張って訂正が出来ない事。この“トップリーダーの個人のモンスター性”これを 私 加藤寿夫 個人にぶつけてくる事、これは「相手の個人的な“感”として 怒り・怒りを己の腹に収め、私自身が 己の“器”を 育て・慈しみ創る“糧”これに転換していけば好い事」と理解している。しかし 社会に対して 公の立場の人間が、己の都合 時々の感情により 軸がぶれ、直接 社会・公の不利益に 振る舞う事、この是正は 絶対的に必要・必至な事、特に 我々医療現場に於いては 時間との駆け引き・命との引き換えに成る事も“想定内”である。怯む時間は無い、断固 肝に命じ 処していく。

ここ半年程 自分の力不足を認識した上であるが、私が“モンスター性”を見出した職員に対し、己の持つ“器”総てを持ち 処してきた。これを 第三者的に 客観的に分析し紹介する。[その] 44歳 女性 准看護師。準(≠准)の文字に泣き・笑いながら 彼女の成してきた事がある。“3Kに準じた仕事”に精を出す。正看の資格故 踏ん返り返っているナースとは大違い、尊敬する。ただし「“泣き”が“成してきた事”を上回る為」「己が自分で成し「遣り切り認められる」という経験が無い事」「耐える”より”諦める”事が先行し、その確立が出来無い環境にあった事」「またそこから逃げて 如何にか成った“准看”という資格を有した事」「誠の“優しさ”無き状況から 優しさ」と真の“厳しさ”の区別のつかないところ そこを右往左往している事」「信じて裏切られた経験から 信ずるべき本物を見極める術を失っている事」結局は 己 自分から逃げている様に思う。私は 康寿会 加藤内科医院 創始者である 親父 康二、そして“雅寿の文言”の教え等から対してきた。何はともあれ「側近の本院のカンファレンスを聴き直した上で 処してくれ」と記し手渡し 己の原点からの訂正・再生を願い促している。私の“意” 伝わる事を願う。

静岡県糖尿病協会 [=静糖協] 総会に出席して

～ 「組織の義」 心得る事を学んで《その》～

平成24年4月28日(土) 静岡県糖尿病協会 [=静糖協] 総会に出席した。我々 康寿会加藤内科医院 1970[昭和45]年発足 糖尿病患者さんの会 “睦会” この代議員として、飽く迄 傍聴者として 出席する心積もりであった。

ところが 前日の昼 前会長 田中彰氏から 電話連絡があり この会に於いて 突然「議長に推薦するので 引き受けて欲しい」とのお話し。私は 田中氏の電話に、相手の「政争の具とする馴れ合い これを征し襟を質せ」との 考え・意見を聴き、私自身の協会への想い 更に 協会の人間関係に言及し、「最終的には 会長 井上達秀先生の指示により 必要に応じ引き受ける」と 答え 電話を置いた。

この晩 頭の中を “静糖協の在り方” に絞り 想いを巡らした。1997[平成9]年4月この地 静岡県榛原郡吉田町で 親父 康二と共に診療を始めた頃、更に溯り 1980年代頃であろうか 静岡済生会病院の初代会長 石垣健一先生が 静岡済生会病院中心の組織として 静糖協を創められた時期。この後 前会長 田中氏の頑張り、これに 現在 顧問として 静糖協を見守っていただいている 元県立総合病院院長 現在 “しずおか健康長寿財団” 理事長 佐古伊康先生の力添えにより 県中部に、更に 元浜松医科大学副学長 現在吉見内科クリニック 吉見輝也先生の迫力により 県東・西部に、組織を 大きく 慈しみ・育て 現在に至っている。この会の大前提につき この日考えた事、下記 に 箇条書きにする。

静岡県糖尿病協会 [=静糖協] の大前提

- その 静岡県糖尿病協会 [=静糖協] は 何処までいっても 徹底的に 糖尿病患者さん・この予備軍の方・更にこの周辺疾患の患者さん、そして この患者さんを取り巻く 家族の為の会である事。
- その 患者さんをはじめ 個々の会員が 個人の為 また組織の為に 前向きな“意見”を “確”と 言える・語れる会である事。
- その 医師・糖尿病療養指導士 [=CDE] をはじめとする この会に賛同・参加する医療人は、この組織が参画する施策 その下には個々の会員である患者さん・家族等の前向きな“意見” これを知識人として 聴き・吸い上げ 理解し、この前向きな想いが 医療の現場で反映[繁栄]される為に、力添えする事。

2012.4.27. “静糖協”につき 加藤寿夫が 想いを巡らした事

更に、最近の静糖協の運営 特に過去二年間、田中会長が退任後、県の 内分泌・代謝科 糖尿病部門を 指導・牽引する 県立総合病院の医師 井上氏が会長に就任後、この 組織の在り方につき 熟考し 床についた。

総会当日、今年度より 静糖協 理事に就任される予定の 本院糖尿病患者さんの会 “睦会”の代表者 鈴木文夫氏と 昼飯のうどんをすすりながら、昨日の事 “静糖協の

在り方”につき 想いを巡らした事」己の考えを話した上、「私の発言 不適切・過激であれば ストップを掛けて下さい」とお願いし、この会に出向いて行った。

本会は30人余りが出席し、田中氏が 加藤寿夫を議長に推薦、私は 己の立場を説明の上「井上氏の指示に従う事 表明」し、井上氏が 私に対し「本日はフロアから意見を云う立場でお願いしたい」と 個人的意見を述べられ、司会者一任という事で拍手、磐田市立病院の代議員を議長とし議事が始まった。最初に“委任状の在り方が議長に一任となっていた旨”が問われ 議事の進行が危ぶまれたが、フロアの市立S市民病院患者会代表の方から「せっかく 忙しい中集まったのだから 仮でも何でも議事を進めていただきたい」との 切なる発言から拍手が起こり、議事は進行した。

今回、この会に出席して何より参考になった事は、私と同世代の 副会長 小松勝利先生の迷いの中からの発言・挨拶であった。「糖尿病協会に属する患者さんとそうでない方を差別する事は間違いである」とのお話から「先ず第一に考える事は、糖尿病協会に興味を示し 本日 この場に足を運んでくれている方、自ら病気と向き合おうとしている方々以上に、若い働き盛り 特に男性で、忙しい事を事由に、“糖尿病と云う病気の受け入れ”が曖昧で、本人の意識に十分な変革が成されず、糖尿病という病気と十分に向き合う環境が与えられない状況「薬だけ取りに来て どうにか治療を継続しているようなら まだましで…」糖尿病あるいは予備軍と診断されながら 放置されている方々ではないか…」との 社会情勢を捉えての発言、全く同感である。内分泌代謝科・糖尿病を専門とする 開業医の立場から「今後 医師として 静糖協として、患者さんである皆さんに力添えをいただき、何が正しくて 何を優先的に成すべきか 共に 考えていきたい」とのお話し 大変参考になり、自分の中のモヤモヤが解消される思いがした。そして 悩みながらも 一歩抜け出し 次のステップへ進み行動を起こす事が必要であると考えた。各論として 医師として 静糖協の立場からこれから成すべき事 私が提案事項として考えた事、下記 に 箇条書きにする。

静岡県糖尿病協会 [=静糖協] の成すべき事 (提案事項)

- その 静岡県糖尿病協会 [=静糖協] は 糖尿病患者さん・この予備軍の方・更にこの周辺疾患の患者さんへの 現場に見合った 正確な啓蒙活動を行なう。特に 横の繋がり、具体的に 地区毎に患者会の合同開催・相互乗り入れ等を企画し、静糖協はこれを 人員面・金銭面でバックアップし、互いを高め合う施策を講ずる。
- その 静岡県糖尿病協会 [=静糖協] は、糖尿病だけでなく周辺疾患への早期の予防的取り組みを目指す。具体的に “特定健康診査・特定保健指導” いわゆる“メタボ健診”に於いて、個々の受診者が 個人にとって「私はこの健診から目覚め 健康を得た」成功したと 見えるように導く、啓蒙活動等の施策を講ずる。
- その 静岡県糖尿病協会 [=静糖協] は、広報の発行を 糖尿病・メタボ健診の現場で役立つ事を中心に 企画・計画的に行う。

2012.4.30. “静糖協”につき 加藤寿夫が 想いを巡らした事

《看護師(若干名)募集のお知らせ》

時間 / 8:00 ~ 18:00(交代制・昼休み時間あり)・パート可

休日 / 日曜日・祭日・木,土曜日午後休診

待遇 / 各種保険完備・交通費支給・初年度年休 10 日間

給与 / 当院規定による(フル勤務 30 万/月・時給 1600 円以上)

資格 / 経験者・各種資格所有者 優遇

これから資格取得を目指す方 サポート

応募 / 電話にて連絡(0548-32-0701)の後 履歴書(写真添付)を連絡先を明記して 本院へ郵送

《診療案内》

毎日 朝 8:00 より 5 分間 阿波踊り
体操をしております。是非御一緒

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時 ~ 12 時						
15 時 ~ 18 時				/		/

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。
午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。
休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

6 / 27(水)午後・6 / 28(木)、29(金)、
30(土)は全日 臨時休診です。